

行動する 青年部・女性部

日本唯一の「愛の聖地」で 結婚式イベントを開催

長崎県雲仙市商工会女性部

『愛しの吾が妻』——愛する妻へ
愛の証として切符を贈ります

雲仙市内を走る島原鉄道には「愛野駅」と「吾妻駅」があります。両駅名をつなげると『愛しの吾が妻』と読めることから全国的にも有名になり、新婚旅行や切符が昔から人気です。愛野駅は珍しい教会風の駅舎でもあり、愛を深めるロマンチックな雰囲気があるとして、平成20年に日本ロマンチスト協会から日本で唯一の「愛の聖地」に認定され、協会本部が設立されました。

商工会女性部は平成23年、この日本唯一の「愛の聖地」を観光資源としてもっとアピールできないか、もっと多くの人に雲仙市に来てもらえないかと考え、愛野駅を生かした「愛」がテーマのプロジェクトを実施することになりました。愛野駅での結婚式、題して「ロマンスウェディング」です。「愛の聖地に住む私たちがカップルを全力でサポートし、ロマンチックな結婚式にしよう！」とのかけ声のもと、女性部だけでなく青年部とも協力し、商工会全体でこの大イベントの成功に向かって動き出しました。

全国から50件もの応募が殺到
3組のカップルを1000人が祝福

結婚式を挙げるカップルは新聞、インターネットで募集。「愛の聖地」での結婚式の価値を最もアピールするため、「式の費用は無料!」と呼びかけたところ、嬉しいことに全国から50件を超える問い合わせがあり、その中から3組を選びました。また、愛野駅だけでなく雲仙市全体を「ロマンチックな愛の聖地のまち」として盛り上げるため、式から披露宴までを雲仙市内を巡りながら進行するプランにしまし

た。式を挙げるカップルが県外出身者だったので、市内観光も楽しんでいただくのが狙いです。

結婚式の準備と並行して、女性部では、結婚式の記念と愛野駅が今後も観光名所として活気づくことを願って「顔出し看板」を設置することに決めました。デザインは結婚式にちなんで新郎新婦。仲良く雲仙市の名産を手にした新郎新婦と愛を運ぶ島原鉄道のイラストを描き、愛野駅には洋装、吾妻駅には和装スタイルの看板を設置し、顔を出すだけで結婚式風に写真が撮れるようにかわいらしく仕上げました。

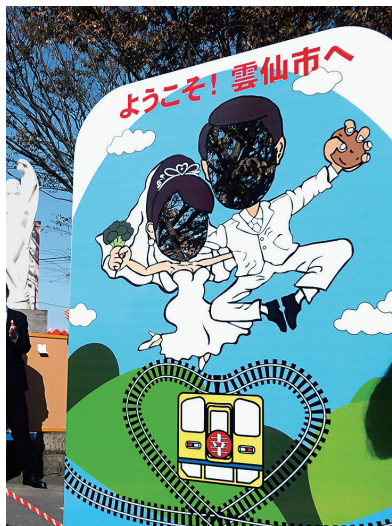


愛野駅の前で結婚式

そして式当日、まずは愛野駅で挙式（人前式）をして、そのまま『愛しの吾が妻』切符で吾妻駅へ向かい、その次に小浜温泉がある小浜町で披露宴を行いました。女性部も愛野・吾妻両駅で「顔出し看板」の除幕式、カップルの介添え、各会場の準備に奔走しました。



たくさんの人が祝福に集まった



顔出し看板を駅前に設置

商工会女性部の草野有美子部長は「準備から本番まで何もかも初めての大きなイベントでしたが、1000人を超す市民の方々の参加をいただきました。青年部とともに商工会全体で取り組み、達成感を共有できたことが、今後の地域活性化の大きな力となります。参加者の皆様の笑顔にはこちらも幸せを分けていただき、みんながロマンストになった1日でした」と語り、結婚式は大成功に終わりました。



介護施設を訪問、「がんばらば体操」で元気を届けた

出し看板は観光客、帰省客にも人気が出てきました。これからも多くの方に「愛の聖地」を知ってもらい、足を運んでもらえるように一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

「がんばらば体操」で元気を届け！

平成24年度地域貢献事業として、お年寄りの健康増進と親睦を図ることを目的に、雲仙市内の高齢者介護施設で「がんばらば体操」を行いました。

「がんばらば」とは長崎弁で「がんばろう！」という意味で、平成26年に長崎県で開催される国体を盛り上げるためにつくられた体操です。この体操と、各支部が得意な歌と踊りを披露して、女性部の元気を伝えることにしました。

女性部には国見、瑞穂、吾妻、愛野、千々石、小浜、南串山と地区ごとに支部があり、3つに分かれてそれぞれの地区にある施設を訪問しました。練習日はあまり多く取れませんでした

が、当日は、体操の動きに合わせて手を動かす方や一緒に歌う方などいろいろと和やかな時間を過ごすことができました。元気を届けつつも、こちらが逆に元気をもらったような1日でした。施設の方からも「楽しかったので毎月来てください」というありがたい言葉もいただき、本当に有意義でした。

事業を通じて絆が深まる

私たち雲仙市商工会女性部は7年前に7町の商工会女性部が合併して発足しました。活動規模が変化して全員がうまくまとまるか心配でしたが、ロマンスウェディングや地域貢献事業、視察研修など一つひとつの事業を通して部員同士の絆が深まっていると実感しています。商工会内でも、「女性部が一番元気があり、団結力や行動力がある」と言われるほどです。

今後も、全国展開事業や国体へのボランティア参加など、取り組むことはたくさんありますが、互いにアイデアを出し合い、地域の発展のために女性部パワーでさらに邁進していきたいと思えます。